

2013年3月1日

社団法人日本クラシック音楽事業協会御中

## 宮城県七ヶ浜町でのアウトリーチとワークショップ 報告書

(2012年11月7日～9日開催 亦楽小学校、松ヶ浜小学校、汐見小学校)

### 【事業のねらい】

- 演奏家によるアウトリーチにワークショップを内包させ、鑑賞と表現活動の有機的な関連を図る。
- ワークショップでは子どもたちの将来や環境を題材とした創作活動を行い、表現力やコミュニケーション能力向上を図ると共に、地震・津波によって被災した子どもたちの心のケアを目的とする。

### 【実施概要】

2012年11月7日実施 亦楽小学校

10:05～10:50「鑑賞型アクティビティ」(6年生全員)

10:55～11:40「ワークショップ」(6年1組26名)

11:45～12:30「ワークショップ」(6年2組26名)

アーティスト：仲道郁代 ファシリテーター9名 職場体験の地元中学生3名

2012年11月8日実施 松ヶ浜小学校

9:40～10:25「鑑賞型アクティビティ」(6年生全員)

10:35～11:20「ワークショップ」(6年1組33名)

11:30～12:15「ワークショップ」(6年2組32名)

アーティスト：仲道郁代 ファシリテーター9名 職場体験の地元中学生3名

2012年11月9日実施 汐見小学校

9:40～10:25「鑑賞型アクティビティ」(6年生全員)

10:45～11:30「ワークショップ」(6年1組34名)

11:40～12:25「ワークショップ」(6年2組33名)

13:45～15:20「ワークショップ」(6年3組34名)

アーティスト：仲道郁代 ファシリテーター7名 職場体験の地元中学生3名

## 【内容】

### ◎鑑賞型アクティビティ

- ① 導入(隣に座った児童やファシリテーターと無言のまま目を合わせながら握手をする。言葉を介さずに、相手の情報を感じ取る。)
- ② 道具を使用した提示。(ボールやフープ、シャボン玉を使って様々なアクションをおこし、それにピアノの音を付ける。躍動感やなめらかな感じ、浮遊するような感じなどを音で表す。)
- ③ ②の活動を受けて、演奏(キラキラ星変奏曲/モーツァルト)の中の表現やイメージをより深く感じ取る。
- ④ 空間に響く音の減衰や余韻を感じ取る活動。
- ⑤ 見えないボールのキャッチボール。(人の思いや気持ちを感じ取ったり、受け止めたり、こちらから働きかけたり、言葉を介さないコミュニケーション体験。)
- ⑥ 演奏(エチュード/ショパン)から感じたことを発表する。
- ⑦ 演奏(愛の挨拶/エルガー、別れの曲/ショパン)と絵の関連性を考える。
- ⑧ 演奏(子犬のワルツ/ショパン)を聴き、音楽の具体的な表現を理解する。(数名の児童に具体的な子犬のイメージを考えさせ、そのイメージに合った表現の演奏を聴く。)
- ⑨ 絵と演奏(光のこどもたち/田中カレン)の関連を図りながら、音楽的な感受を深める。
- ⑩ 演奏(月光ソナタ/ベートーヴェン)と、楽曲の要素や構成と歴史的背景の学習。(音楽には、作曲者の思いや意図が込められているということや、ソナタ形式についての学習をした上で、ワークショップ活動につなげる。)

### ◎ワークショップ

ボディパーカッション(拍の移動や呼吸合わせ、強弱の表現など)を行った後、グループに分かれて創作活動を行った。創作活動では、「20歳になった時の私たち」と「20歳になった時の七ヶ浜」についてのキーワードを話し合って決め、グループごとにそのキーワードに対してイメージした言葉を紙に書き、それをもとに8拍のリズムとメロディーを付けた。音楽が出来たら、普段授業では使用しないような楽器(鼓や太鼓、ジャンベ、鉄琴、ミュージックベルなど)を使って練習。各グループにはそれぞれファシリテーターが1~2名加わり、児童の意見を引き出し、楽器の工夫を促しながら練習を行った。最後に、各グループの言葉を書いた紙をソナタ形式に則って並べて、全員でピアノの伴奏と共に演奏・録音をした。

## 【事業の成果】

今回の取り組みは、ピアニスト仲道郁代が社会貢献として取り組んでいるものの一つである。音楽の楽しさを伝えることだけではなく、音楽教育を視野に入れ、一步踏み込んだ内容の取り組みである。

今回訪れたのは、去年の大震災で津波の大きな被害を受けた宮城県七ヶ浜の小学校である。大切な家族や家を無くした子どもや、豊かな自然が崩壊した地区もあり、時間が経過した今も子どもの心のケアは必要とされている。もともとレジデンス・アーティストとして七ヶ浜と交流のあった仲道が、この取り組みを実施することで、子どもたちが音楽を好きになるだけではなく、関心や意欲を高め、子どもたちの豊かな未来を、と願って行われたものである。

鑑賞型アクティビティでは演奏だけではなく、自らパフォーマンスを行い子どもたちと対話を重ね、発言を多く引き出した。子どもたちは感じ取ったことを発表したり、他の意見を聞いたりすることで、様々な捉え方を知り、音楽的な思考や言語能力を高める活動となった。

なかでも絵を使用した活動は、視覚と聴覚の両方から分析的に把握できるように方向づけしたものである。これは理解を促し、より深く音楽を味わおうとする意欲を高めるものである。しかし今回は、子どもたちからは、「閉じ込められている感じ」「寂しい感じ」などの意見も出て、心の中にある傷を感じさせるような一面を覗かせていた。そして、曲の歴史的背景についての学びは、音楽文化の価値や芸術性についての理解を深める活動であった。子どもたちは、目の前の素晴らしい演奏に心を奪われるように集中して聴き、感受性を高めていった。

ワークショップでは、グループごとにファシリテーターの大人と職場体験の中学生が加わり、一緒に自分たちの気持ちや思いを音楽で表すという活動に挑戦した。子どもたちは、未来の自分や仲間たち、未来の七ヶ浜の環境を心に描きながら、創作と表現活動に取り組んだ。最後にグループごとの演奏をつなぎ合わせてソナタ形式に組み立て、仲道が伴奏をつけることで、単に音を並べただけのものとは違い、ひとつの楽曲として達成感の高いものが出来上がった。みんなで拍子を感じながら演奏し、楽しさや一体感が子どもたちの心を満たした活動となった。

今回の取り組みは、小学校音楽科のねらいである「表現と鑑賞の関連を図る」という点において、鑑賞型アクティビティでの聴取経験が土台となって、ワークショップでの表現活動に生かされた活動であったと言える。また、新しい学力観が求める思考力や判断力、表現力やコミュニケーション能力の育成を音楽表現の側面から具現化するという点において、今後大いに期待できる活動であった。

## 【助成対象経費報告】

11月7日～9日 仲道郁代、ファシリテーター他 計9名

交通費（東京・多賀城往復）：222,980円

宿泊費：108,000円

調律費、ファシリテーター日当 諸経費：218,833円

総経費 549,813円のうち、心の復興音楽基金からの支援額 360,680円

（支援対象：交通費7名分、宿泊費8名分、調律費）

株式会社ジャパン・アーツ

仲道郁代担当 肥後裕介、寺沢光子

報告書作成：近畿大学豊岡短期大学 鈴木香代子